#《特集》将来の千歳のために…「財政標準化計画」

市は、将来の千歳の財政の安定的な運営を目的に、「財政標準化計画」をつくりました。この計画は、具体的な数値目標を掲げ、将来の世代への負担を減らし、将来のさまざまな経費の増加に備えようとするものです。今月は、この新しい計画について紹介します。

成熟化が進む市街地。将来も安定したまちづくりが望まれます。

市は、平成16年度に「財政健全化対策」をつくり、平成17年度から21年度までの5年間、収入・支出の両面からさまざまな取組を行い財政の健全化を進めてきました。この結果、当初見込まれた116億円の財源不足を解消する目標を達成することができました。

しかし、世界金融危機と世界同時不況の影響により現在の経済・景気の状況は当面続くことが予想されます。また、これまで増加してきた人口は長期的には減少に転じることが予測されています。こうしたことから市税など市が自由に使えるお金「一般財源」の増額が見込めず、市の収入は今後も厳しい状況が続くと考えられます。

一方、支出は、全国的に少子・高齢化が進む中、千歳も同様の傾向となっており、今後、生活を支えるための社会保障費がさらに増額することが見込まれます。また、富丘中学校分離校の建設や市営住宅の建替えなどの大型事業を予定しているため、事業に伴って借入金の返済「公債費」が増えることが予想されます。このほか、スポーツセンターなど既存の公共施設が建物や設備の更新時期を迎え維持補修に多額の経費が見込まれており、支出はこれからも増加する傾向にあります。

このように市の財政を取り巻く環境は依然として厳しく、財源不足が解消しても、このままでは再び「財政健全化対策」前の状態に陥ることになります。

このため、市は、平成21年12月に**「財政標準化計画」**をつくり、これまでの対策によって改善した財政収支バランスを保ちながら、将来にわたる市民の負担をできるだけ抑えて安定した財政運営を進めることとしました。

この計画は、将来の借入金の額や財政指数など具体的な数値を用いて目標を明らかにしています。